

Quality is more than a word

ESPEC



第 **63** 期

## 中間株主通信

---

2015年4月1日から2015年9月30日まで



# 株主のみなさまへ



代表取締役社長 いしだ まさあき  
**石田 雅昭**

株主のみなさまには平素より格別のご高配を賜り、厚くお礼申しあげます。

2015年度第2四半期累計期間(2015年4月1日～2015年9月30日)の日本経済は、米国の堅調な景気拡大や円安・原油安を背景とした企業の収益改善などにより回復基調が継続しましたが、中国経済の減速や世界同時株安など世界経済への影響が懸念される状況となりました。

当社の主要なお客さまにおきましては、自動車関連メーカーでは積極的な投資が継続するとともに、エレクトロニクス関連メーカーでも投資意欲の改善が見られました。

こうした中、当社は国内市場において、自動車市場での取り組みを強化した結果、汎用性の高い標準製品の売上高が前年同期比で増加し、カスタム製品も前年同期比で増加しました。

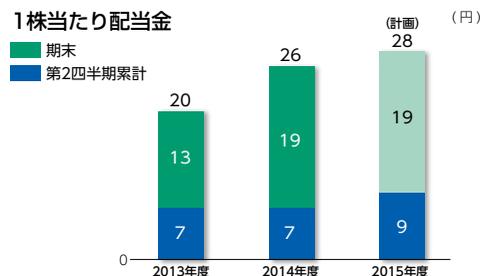
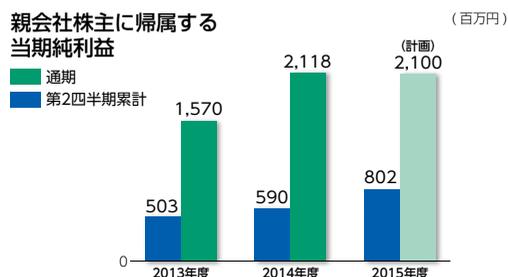
また、海外市場では、米国をはじめ中国・東南アジアにおいて営業活動の強化に取り組み、米国子会社の売上高が前年同期比で増加するとともに、中国・東南アジア市場においても輸出や中国子会社の販売が好調に推移しました。

こうした結果、連結業績は売上高は前年同期比で13.7%増となり、営業利益は35.4%増、親会社株主に帰属する四半期純利益は35.9%増となりました。

中間配当金につきましては、1株当たり9円とさせていただきます。

通期の連結業績予想につきましては、期初計画どおり、売上高35,000百万円、営業利益2,800百万円、親会社株主に帰属する当期純利益2,100百万円を予定しております。配当金につきましても期初計画どおり、期末配当金は1株当たり19円を予定しております。

株主のみなさまにおかれましては、一層のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。



## 世界初「バッテリー安全認証センター」の開設 国連規則対応の安全性試験・認証のワンストップサービスを提供

当社は9月17日、宇都宮テクノコンプレックス(栃木県宇都宮市)に世界初の「バッテリー安全認証センター」を開設し、開所式を執り行いました。自動車やバッテリーメーカーなど主要なお客さまや報道関係者など約100名にご参加いただき、基調講演、試験所見学会、懇親会を行いました。

### 高まる車載用バッテリーの安全性試験ニーズに対応

世界各国でCO<sub>2</sub>排出規制・燃費規制が厳しくなる中、エコカーの開発が加速しています。これに伴い、車載用バッテリーの大容量化が進み、バッテリーの安全性向上が世界的課題となっています。2013年にUNECE(国連欧州経済委員会)において、2016年7月以降に新規認可される電気自動車などに搭載される充電式のバッテリーは国連規則「UN ECE R100-2.Part II」に適合することが義務づけられました。このため、自動車、バッテリーメーカー各社は国連規則に定められた安全性試験の実施と認証が必要となります。

こうした中、当社は2014年10月に世界的な第三者認証機関であるテュフズードジャパン\*と業務提携を行い、国連規則対応の安全性試験から認証申請までを一カ所で行える「バッテリー安全認証センター」を開設しました。テュフズードの安全認証試験技術や認証機能と当社の豊富な環境試験技術と最先端の試験設備により、世界初のワンストップサービスを提供してまいります。



※テュフズードジャパン株式会社  
ドイツに本社を置く第三者認証機関  
テュフズードグループの日本法人



開所式



バッテリー安全認証センター(宇都宮テクノコンプレックス内)



圧壊試験機

## 世界初「バッテリー安全認証センター」の特長

当社が開設した「バッテリー安全認証センター」は、国連規則に定められた9項目の安全性試験から認証申請までを一カ所で行える世界初の試験所です。これまでは、9項目の安全性試験を実施するためには複数の試験所に出向き、自社で認証手続きを行うため、打ち合わせやスケジュール調整に手間がかかっていました。本センターを使用すれば、一カ所で試験から認証申請まで完了できるため、お客さまの手間やコストを大幅に削減することができます。さらに、本センターでは国連規則対応の認証試験だけでなく、小型から大型サイズまでバッテリーの安全性試験をトータルに実施できます。このように当社は、自動車・バッテリーメーカーの安全性確保や規格適合にかかる負担を低減し、自動車産業の発展に寄与してまいります。



試験所見学会(安全試験室)



懇親会

## 株主のみなさまへ

エスペックグループの技術を担当しています常務取締役 石井邦和です。今回、世界初の「バッテリー安全認証センター」を開設しました。車載用バッテリーの安全性に対する関心は高く、安全性試験の受託試験や認証試験サービスの需要は増加傾向にあります。中期経営計画「プログレッシブプラン2017」達成にむけて、車載用バッテリーをターゲット市場として新しい装置や試験サービスの開発を行っています。今回の試験所開設もその一環であり、今後も当社の技術や装置が、先端技術の開発に貢献できるよう取り組んでまいります。よろしくご依頼申し上げます。



常務取締役 石井 邦和

## 中国における販売および生産体制を再構築 中国・アジア戦略のスピードアップと売上拡大を目指して

2015年7月、中国の合併会社「上海エスペック」の完全子会社化を行いました。これにより、市場環境の変化に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整え、中国・アジア戦略のさらなるスピードアップを目指してまいります。当社は、合併会社として1985年に「上海エスペック」、1995年に「広州エスペック」を設立し、中国での設計・生産・販売を担ってきました。1997年には、100%子会社の販売会社「エスペック上海」を設立し、中国の需要拡大に対応してきました。中国は各国の開発・生産拠点が多数あるだけでなく、高性能な環境試験器やカスタム製品の需要が増加するなどニーズの多様化が進んでいます。

こうした中、当社は中国における販売および生産体制の再構築に取り組み、2013年1月には、「広州エスペック」の合併契約を解消し、同年5月に100%子会社の「エスペック広東」を設立。2015年7月には、「上海エスペック」を完全子会社化し、販売機能を「エスペック上海」に集約しました。今後、中国での設計・生産は「上海エスペック」と「エスペック広東」が担います。「エスペック上海」は中国の販売統括会社として、エスペックグループ製品を一括して取り扱います。これにより、中国市場においてさらなる売上拡大を目指してまいります。

### 株主のみなさまへ

エスペックグループの営業を担当しています常務取締役 島田種雄です。

現在、中期経営計画「プロGRESSプラン2017」達成に向けて、主に国内営業、海外営業の統括を指揮しています。今回の中国における販売および生産体制の再構築のねらいは、グループ企業の連携を強化し、当社の中国市場での成長を目指すものです。これからも、攻めの営業を加速させ成長分野をターゲットに戦略的に取り組んでまいります。さらに、世界中のお客さまからグローバル企業として高い信頼を得られるよう取り組んでまいります。

よろしくお願い申し上げます。



常務取締役 島田 種雄

## ESPEC Vision 2025 発表会を開催 福知山・東京・大阪の3会場にて

当社の10年後の姿を描いた「ESPEC Vision 2025」の発表会を福知山(7月28日)、東京(8月21日)、大阪(8月25日)と順次開催し、約1000名の社員が参加しました。発表会の第1部では、未来に向けた新しい出発を予測させるオープニングに続いて石田社長が登壇し、ビジョンに込めた熱い思いを発表しました。発表会の第2部では、社員の企画による懇親会を行い交流をはかりました。「ESPEC Vision 2025」のキーワードの一つは、冒険心です。最先端技術の分野で当社が貢献できることはたくさんあります。そのためには、失敗をおそれずに未知の分野に足を踏み入れる冒険心が必要です。冒険心を持ち新しいものを生み出すエスプレックを目指してまいります。



## リチウムイオン二次電池の発明者 旭化成株式会社フェロー吉野彰氏の特別講演開催

当社では、技術情報の共有や技術者のスキルアップ、視野・発想を広げることを目的に、技術者が自らの開発成果を発表する技術交流会を定期的に開催しています。2015年7月に開催した技術交流会では、リチウムイオン二次電池の発明者である旭化成株式会社フェロー吉野彰氏をお招きし、特別講演を行いました。「リチウムイオン二次電池 現在・過去・未来」と題して、リチウムイオン二次電池の動向や今後の可能性についてわかりやすくご講演いただきました。講演後の質疑応答では、社員からの質問に対して、貴重なアドバイスを多数いただきました。



旭化成株式会社フェロー 吉野彰様  
1999年(社)日本化学会の化学技術賞  
など国内外における科学技術分野の  
名誉ある賞を多数受賞されています。

講演後の質疑応答の様子

## 「みどりのカーテン」苗の植え付け 気仙沼市の仮設住宅など9ヵ所で実施

2015年6月、気仙沼市唐桑町内の仮設住宅において、入居者のみなさまと共に「みどりのカーテン」となるゴーヤ苗の植え付けを実施しました。

東日本大震災以降、当社は、被災されたみなさまへの支援活動の一つとして、仮設住宅の温熱環境を改善する「みどりのカーテン」の設置を2011年度より毎年実施しています。5年目となる今回は、社員ボランティア10名が気仙沼市の5ヶ所の仮設住宅と小中学校などにゴーヤやきゅうりの苗を約150本植え付けました。高台への集団移転などが今後進むため、仮設住宅への支援は一旦区切りとなりますが、今後も小中学校への環境教育を継続してまいります。



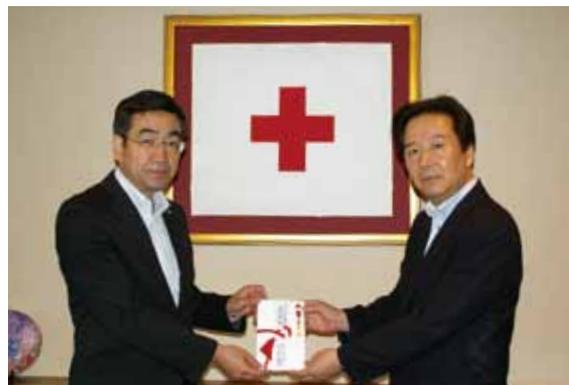
小原木小学校仮設住宅のみなさんと社員ボランティア

## ネパール地震被害に対する支援 災害義援金の寄付

当社は、「良き社会の一員」として、地域との共生や社会貢献活動に取り組むことを大切にしています。自然災害の発生時には、被災地の早期復興を目的に義援金の寄付活動を行っています。

2015年4月にネパールで発生したマグニチュード7.8の大地震では、当社および当社グループ会社の役員・社員より義援金を募り、日本赤十字社の「2015年ネパール地震救援金」として、約80万円の寄付を行いました。

今後も当社は、社会や地域のための活動を積極的に推進するとともに、社会貢献を重んずる企業風土の醸成に取り組んでまいります。



赤十字への寄付風景

# 株主アンケート結果のご報告

第62期株主通信のアンケートでは多くの株主さまからご回答をいただきました。

ご協力いただき、誠にありがとうございました。

みなさまからの貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の経営やIR活動に反映させていきたいと考えています。

株主通信に掲載を希望されているテーマやご意見について一部ご紹介します。

## 株主さまからの声

### 新分野の開拓事例や次世代に向けた取り組みが知りたい。

先端ニーズにお応えするために、当社は新しい取り組みに積極的に挑戦しています。P.3~4の特集では、世界初となる「バッテリー安全認証センター」の開設についてご紹介しました。車載用バッテリーの安全性試験の需要の高まりに対応してまいります。

### 環境活動などCSRの取り組みについても知りたい。

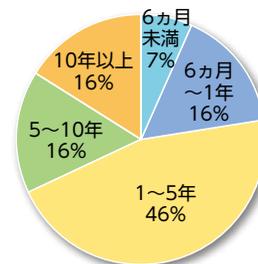
P.7のTOPICSで環境活動や社会貢献の取り組みについてご紹介しました。今後も株主通信を通じて、みなさまに当社のさまざまな取り組みを幅広くご紹介してまいります。

ご回答者数 **2,181**名 (男性:75% 女性:25%)

世代別



当社株式保有期間



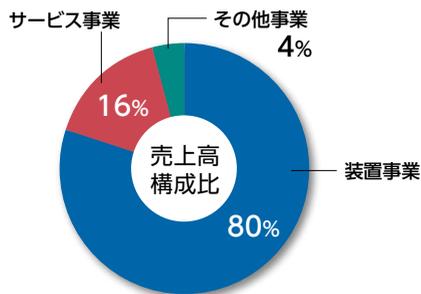
### 実際に製品を使っているユーザーの声を聞いてみたい。

2015年4月1日に社外ホームページをリニューアルし、新しいコンテンツ「Close-Up ESPEC」を掲載しました。この中で、お客さまへのインタビューや納入事例などをご紹介しています。最新の記事では、ヤマハ株式会社さまのインタビュー内容を紹介しています。

<http://www.espec.co.jp/corporate/closeup/>



# 事業セグメント別概況



## 〈装置事業〉

- 環境試験器
- エナジーデバイス装置
- 半導体関連装置

## 〈その他事業〉

- 環境エンジニアリング  
森づくり・水辺づくり・都市緑化など
- 新規事業  
植物工場など

## 〈サービス事業〉

- アフターサービス・エンジニアリング
- 受託試験・レンタル

## 装置事業

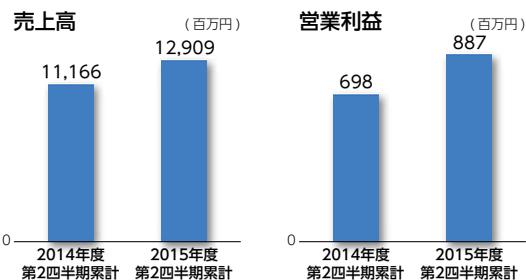
### 環境試験器が好調に推移し増収増益

環境試験器では、国内において汎用性の高い標準製品が好調に推移し、自動車市場を中心に恒温恒湿室ビルドインチャンバーやカスタム製品の販売拡大に努めた結果、前年同期比で受注高・売上高ともに増加しました。海外では、米国・中国・東南アジアを中心に輸出が堅調に推移し、また米国・中国子会社が好調に推移しました。エネルギーデバイス装置では、車載用二次電池の充放電評価装置やパワー半導体の評価装置の受注獲得に注力し、前年同期比で受注高は増加しました。半導体関連装置では、スマートフォン関連メーカーからの受注が堅調に推移し、受注高は前年同期比で増加しましたが、売上高は前年同期比で減少いたしました。装置事業全体では、前年同期比で売上高は15.6%増加し、営業利益は売上高の増加に伴い27.1%増加しました。



恒温(恒湿)器  
プラチナスJシリーズ

恒温(恒湿)室  
ビルドインチャンバー  
/Eシリーズ



## サービス事業

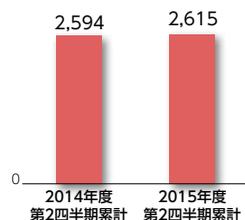
### 売上高は微増、利益は増加

アフターサービス・エンジニアリングの売上高は前年同期並みとなりました。受託試験・レンタルでは、自動車市場において主力のテストコンサルティングが堅調に推移し、売上高は好調だった前年同期並みとなりました。サービス事業全体では、前年同期比で売上高は0.8%増加し、販管費の減少などにより営業利益は15.5%増加しました。



#### 売上高

(百万円)



#### 営業利益

(百万円)



## その他事業

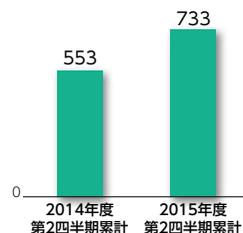
### 植物工場事業が好調に推移し、増収増益

環境エンジニアリングでは植物工場事業が堅調に推移し、売上高が前年同期比で増加しました。その他事業全体では、売上高は前年同期比で32.6%増加し、利益面につきましては、前年同期比で改善し、営業黒字となりました。



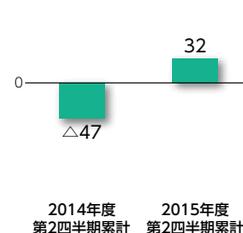
#### 売上高

(百万円)



#### 営業利益

(百万円)



# 要約財務諸表

## 連結貸借対照表

(百万円)

科目	当第2四半期末 2015年9月30日	前第2四半期末 2014年9月30日	前期末 2015年3月31日
<b>資産の部</b>			
流動資産	32,023	29,067	33,036
固定資産	13,889	13,045	13,755
有形固定資産	9,978	9,359	9,644
無形固定資産	373	288	364
投資その他の資産	3,537	3,397	3,746
<b>① 資産合計</b>	<b>45,913</b>	<b>42,113</b>	<b>46,792</b>
<b>負債の部</b>			
流動負債	8,609	7,260	9,336
固定負債	1,879	1,774	2,003
<b>② 負債合計</b>	<b>10,488</b>	<b>9,035</b>	<b>11,340</b>
<b>純資産の部</b>			
株主資本	34,353	32,897	34,072
資本金	6,895	6,895	6,895
資本剰余金	6,914	7,172	7,172
利益剰余金	21,044	19,189	20,554
自己株式	△501	△360	△550
その他の包括利益累計額	1,071	△76	1,085
非支配株主持分	-	256	293
<b>③ 純資産合計</b>	<b>35,424</b>	<b>33,078</b>	<b>35,451</b>
負債純資産合計	45,913	42,113	46,792

### ① 総資産

前期末と比べ878百万円の減少となりました。その主な要因は、受取手形及び売掛金の減少2,334百万円、仕掛品等のたな卸資産の増加1,387百万円などによるものです。

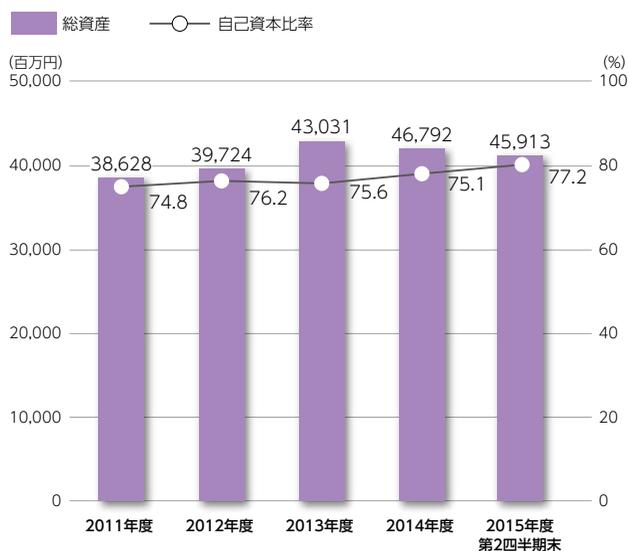
### ② 負債

前期末と比べ851百万円の減少となりました。その主な要因は、支払手形及び買掛金の減少105百万円、未払法人税等の減少302百万円などによるものです。

### ③ 純資産

前期末と比べ27百万円の減少となり、その主な要因は資本剰余金の減少258百万円、利益剰余金の増加490百万円、非支配株主持分の減少293百万円などによるものです。

## 総資産／自己資本比率



## 連結損益計算書

(百万円)

科目	当第2四半期累計 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	前第2四半期累計 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	前期 2014年4月1日から 2015年3月31日まで
売上高	16,136	14,196	33,661
売上原価	10,392	8,981	21,567
売上総利益	5,743	5,215	12,094
販売費及び一般管理費	4,609	4,377	9,450
営業利益	1,133	837	2,643
営業外収益	158	122	422
営業外費用	17	7	21
経常利益	1,274	953	3,044
特別利益	0	1	272
特別損失	0	0	7
税金等調整前四半期(当期)純利益	1,274	954	3,309
法人税等	453	350	1,142
四半期(当期)純利益	821	604	2,166
非支配株主に帰属する四半期(当期)純利益	18	13	48
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益	802	590	2,118

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科目	当第2四半期累計 2015年4月1日から 2015年9月30日まで	前第2四半期累計 2014年4月1日から 2014年9月30日まで	前期 2014年4月1日から 2015年3月31日まで
④ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,087	1,097	1,818
⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△458	△321	△293
⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,033	△309	△508
現金及び現金同等物に係る換算差額	38	△109	297
現金及び現金同等物の増減額	△365	356	1,314
現金及び現金同等物の期首残高	14,167	12,853	12,853
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	176	-	-
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	13,978	13,209	14,167

### ④ 営業活動によるキャッシュ・フロー

1,087百万円の資金の増加となりました。その主な要因は、売上債権の減少2,419百万円、たな卸資産の増加1,448百万円、などによるものです。

### ⑤ 投資活動によるキャッシュ・フロー

458百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、有形及び無形固定資産の取得による支出355百万円などによるものです。

### ⑥ 財務活動によるキャッシュ・フロー

1,033百万円の資金の減少となりました。その主な要因は、配当金の支払額439百万円などによるものです。

# 会社概要・株式の状況・株主メモ

## 会社概要(平成27年9月30日現在)

社名	エスペック株式会社
本社	〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6
創業	昭和22年(1947年)7月25日
設立	昭和29年(1954年)1月13日
資本金	6,895百万円
従業員数	1,381名(連結) 825名(単体)

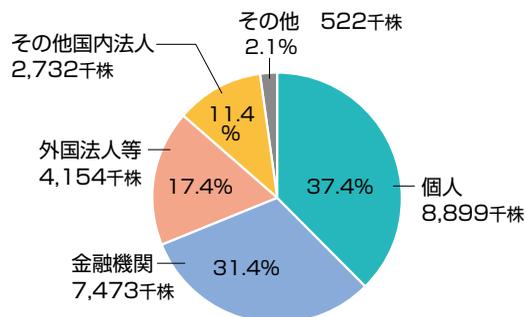
## 役員(平成27年6月24日現在)

代表取締役社長	石田 雅 昭
常務取締役	島田 種 雄
常務取締役	石井 邦 和
取締役	桶谷 馨
取締役	村上 精 一
取締役	大島 敬 二
社外取締役	志関 誠 男
常勤監査役	村上 充
常勤監査役	小田 隆 昭
社外監査役	山本 哲 男
社外監査役	堤 昌 彦

## 株式の状況(平成27年9月30日現在)

発行済株式総数	23,781,394株 (自己株式522,331株を含む)
株主数	5,736名

### 所有者別株式数分布状況



### 大株主

株主名	持株数 千株	持株比率 %
エスペック取引先持株会	1,980	8.32
日本ライフ・サービス信託銀行(信託口)	1,727	7.26
日本マスタートラスト信託銀行(信託口)	1,233	5.18
エスペック従業員持株会	836	3.51
日本生命保険相互会社	790	3.32
エスペック株式会社	522	2.19
株式会社みずほ銀行	513	2.15
MSCO CUSTOMER SECURITIES	488	2.05
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	478	2.01
株式会社立花エレテック	419	1.76

## 株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
中間配当制度	有
基準日	3月31日および取締役会決議によって あらかじめ公告して臨時に定めた日
株式上場取引所	東京証券取引所(証券コード:6859)
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲1丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問合せ先	0120-288-324(通話料無料)
お取扱店	みずほ証券株式会社 (本店および全国各支店、フラネットブース[株式会社みずほ銀行内の店舗]) みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店)
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行株式会社(本店および全国各支店) 株式会社みずほ銀行(本店および全国各支店) (みずほ証券株式会社では取次のみとなります)
公告方法	電子公告 電子公告掲載の当社ホームページアドレス <a href="http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/">http://www.espec.co.jp/corporate/ir/koukoku/</a> ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告による公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載

## お問合せ先

エスベック株式会社 コーポレートコミュニケーション部  
Tel: 06-6358-4744 e-mail: ir-div@espec.jp

## ホームページのご案内

2015年4月、より見やすくわかりやすいホームページを目指してリニューアルを行いました。IRサイトにつきましても、当社の強みや成長戦略を紹介するコンテンツを追加するなど、内容の充実を図っています。その他、業績・財務データなどさまざまな情報をご覧いただけます。ぜひご利用ください。

<http://www.espec.co.jp>



証券コード: 6859

エスペック株式会社

